

# がん相談センター活用を

## 全国の拠点病院に設置

病院で「がんかもしれない」と言われたとき、あるいは、がんと診断されて治療や今後の生活に不安を感じたときに、主治医のほかにも相談できる場所がある。「がん相談支援センター」。全国に約400カ所ある国指

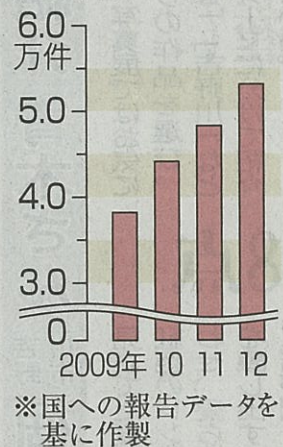
定のがん診療連携拠点病院に設置され、その患者でなくても無料で相談できる。比較的新しい制度で認知度はいまひとつだが、関係者は「迷い、悩む時間を少しでも減らすため、積極的に活用して」と勧めている。

## 他院の患者も無料

東京・築地の国立がん研究センター中央病院。全国の患者が集まるこの病院では、相談支援センターにも全国から相談が寄せられる。「年間約1万件。半分程度が病院外からです」とセンター長の加藤雅志医師(精神腫瘍科)は話す。相談には、国が定めた研修を受けた医療ソーシャルワーカーが当たる。「手術を勧められたが別の医師の意見も聞きたい」といった個別の医療相談の場合には、ほかの病院の医師に「セカンドオピニオ

ン」を求めるよう勧めらるが、標準的な治療法の説明など一般的な医療情報の提供や、職場に病気のことをどう話すか、医療費負担が軽減される制度は「といった問題に対しては、無料で助言をしています」。拠点病院にかかっているがん患者さんの中には、院外にも相談を必要とする人は多いと感じます」と相談員の宮田佳代子さん。国指定の拠点病院は全国に397カ所。指定には、患者が多い肺、胃、肝臓、大腸、乳房の5種類のがんに

## 全国のがん相談支援センターへの1カ月当たり相談件数の推移



「利用したことがないがよく知っている」と答えたのは計7・3%。厚生労働省研究班が11、12年にがん専門病院の患者に聞いた調査でも、センターを知らない人は65%に上った。国立がん研究センターのがん対策情報センターの高山智子がん情報

## 県内 徳島大病院など4カ所

徳島県内のがん相談支援センター1、徳島市民病院(徳島市北常1)、徳島大学病院(徳島市蔵本三島2)、徳島赤十字病院(小松町2)、県立中央病院(蔵本町島市小松島町)の4カ所にある。

「真の課題に本人が気付いていない場合もある。一緒に見つけ、解決策を考える手助けをするのも相談員の役割」と高山さん。研修をさらに充実させる準備を進めているという。

暮らし

